

## アジア人権賞受賞スピーチ

レティシア・B・レイエスさん (Ms. Leticia B Reyes)

Paaralang Pantao 校長

2007年12月7日 東京



こんばんは

今日、こうしてみなさんの前に立っていることに、とても驚くとともに、名誉に感じています。私たちは、私たちの団体の努力がこのような認められることができるとは、まったく予期していませんでした。

私は、貧困がどこにも広がっており、教育が特別なものである国から来ました。この単純ですが厳しい現実が、私たちが努力を始めるきっかけとなりました。

ほぼ20年前、私たちはペアラン・パンタオ (Paaralang Pantao) と呼ばれる学校を設立しました。それは「民衆の学校」であり、その言葉の意味は「思いやりの学校」です。この学校は、子どもたちの窮状に対する対応策として、私のような親たちによって設立されました。子どもたちは、教育や遊びといった基本的な人権が損なわれ、子どもらしくあるための機会を与えられていませんでした。ペアラン・パンタオの目的は、子どもたちに別の選択肢を与えることでした。

私たちは、私たちが子どもたちのために、子どもたちに対して、そして子どもたちと一緒に何をするかが、私たちの思いやりの質を明らかにすると信じています。子どもたちが今日、どのようなか、未来を予見するものです。実際に私たちは、ゴミ捨て場の子どもたちとともに働くことを通して、その未来を毎日見ることができ、幸せに思っています。この骨の折れる環境という重荷の下でも、私たちは子どもたちの中に、より輝かしい日々を約束してくれる力を見出しています。

私はペアラン・パンタオの子どもたちを代表して、アジア人権基金がこの信念を支持してくださったことに感謝したいと思います。のしかかる問題を前にして、私たちの努力が小さく感じられるときもあります。しかし、そうした小さい努力が、他の多くのグループや個人の意欲を目覚めさせることもあると期待をもちます。私たちのところだけでなく世界の多くの場所にある、このような巨大な問題と向き合うには、ほんの少しの時間やお金や努力の積み重ねこそが、大切なのです。困っている人にとって、支援が小さすぎるとか、大きすぎるといふことはありません。場合によっては、その人にあなた方の手を差し伸べるだけでもよいのです。

## では最初に、パララン・パンタオがどこにあるかをお話ししましょう

フィリピンの地政学的な最小の単位はバラングイと呼ばれています。パララン・パンタオは、パヤタスと呼ばれるバラングイにあります。

バラングイ・パヤタスは、マニラ首都圏で最大の町、ケソン市の第2区にあります。パヤタスはケソン市で最大のバラングイの一つで、パヤタスAとパヤタスBという二つの地区に分かれています。

パヤタスのB地区は長い間、マニラ首都圏のゴミ捨て場として使われてきました。当時、そこは単なるゴミ捨て場だったので、市の公式の地図にも載っていなかったことは驚くにあたりません。B地区は、以前は smoky valley すなわち「煙の谷」として知られていました。というのは当時、市のゴミが捨てられていた大きなくぼ地が高い崖の下にあったからです。しかし、それが（トンド地区の有名なスモークキー・マウンテンとならぶ）もう一つの smoky mountain すなわち「煙の山」になるのに長い時間はかかりませんでした。

数多くのダンプ・トラックが、学校がある道路を通過しています。実際、子どもたちがこれらのトラックに乗り込み、マニラ首都圏のゴミをあさっているのを見るのは、日常的な光景です。というのも、彼らはゴミをリサイクルすることで生計を立てているからです。

## 次に、私たちの学校について話しましょう

パララン・パンタオは1987年に、Dumpsite Neighborhood Organization（「ゴミ捨て場の隣人組合」、略してDNOと言います）の小さなプロジェクトとして始まりました。DNOは、ジャンク・ショップを運営することで、パヤタスの家族たちがゴミ拾い以外の手段で生計を立てられるように支援する、お母さんたちの組織です。しかしながら、お母さんたちがその仕事に時間を割けば割くほど、子どもたちの世話をする時間がなくなります。その結果、彼女たちの子どもの多くが、学校の成績を落としたり、落ちこぼれたりして、最悪の場合は学校に通うことができなくなりました。それは変だと思われる方も大勢いらっしゃるかもしれませんが、事実なのです。ゴミ捨て場にいる子どもたちの多くは、とても幼い頃から（親の仕事を見て）ゴミ捨て場で働いて生計を助けることを選ぶため、学校に行く時間もないし、遊ぶ時間もないのです。

そこで私たちは、DNOでこの状況に対応するため、週に一度でもいいから、子どもたちが学び遊べる安全な場所を提供することを計画しました。それが私たちの寄せ集めの資金でできる、精一杯のことだったからです。

その実現のために、私たちは他の多くの組織と連携をしました。最初は、アニー（アニセタ）・アビオンというカトリックのシスターが設立した「住宅環境開発センター（CHHE D）」（当時）の建物を臨時に利用しました。そこでの通常の活動のために、「児童保護研究所（Institute for the Protection of Children）」（当時）のスタッフに支援を求めたところ、彼らは代わりに、「サリンニン基金（Salinsining Foundation）」のスタッフを紹介してくれました。この基金は、今は「演劇を通じた教育の可能性をさぐる子ども実験室」（Children's Laboratory for Drama in Education）、通称「チルドレンズ・ラブ」と呼ばれています。

「チルドレンズ・ラブ」のスタッフは週に一度来て、詩や歌、ゲーム、人形劇、保健をテーマにした寸劇、その他多種多様で創造的な活動を行いました。[それは今も断続的に続いています。]

崩れかけた建物の中で行われるこれらの毎週の活動は、ゴミ捨て場の子どもたちに楽しみをもたらしました。

そしてまもなく、このプロジェクトに関心を持つすべての人が、それは子どもたちにとって一時的な楽しみの種であるだけでなく、真の学びの体験でもあることに気づきました。

毎週の活動に子どもたちが活発に参加していることに励まされ、私たちはこの経験をより日常的なものにする可能性を探りました。親や週一度の活動に参加している兄、姉たちが、ゴミ捨て場の人びとが「事務所」と呼ぶ場所＝ゴミ捨て場で生活費を稼いでいる間に、幼い子どもたちが来て遊ぶことができるデイケア・センター（保育所）のようなものを、同じ建物の中で運営することにしました。

私は、約 30 人の子どもたちが恒常的に来て遊び学ぶ、このDNOのデイケア・センターで、最初の教師になりました。ここで子どもたちは、より良い生活を手に入れるために役立つ、有意義な教を学びました。

デイケア・センターの子どもたちは、その将来性の大きさを感動的なくらいと示してくれました。私は、子どもたちの反応こそが、さらに多くの個人やグループを触発し、私たちの運動へ参加するように促したのだと思っています。これらの人びとが、わたしたちがゴミ捨て場の子供たちのために抱いた夢を分かちもってくれたことに、私たちは永久に感謝するでしょう。

### **この機会を借りて、次の人びとに感謝したいと思います**

- 1、ゴミ捨て場の子どもたち、親たち、そしてコミュニティの人びとに対して。彼らは私たちの輪に加わり、子どもの権利運動を擁護してくれました。
- 2、このプログラムを立ち上げるのに力を貸してくださった「チルドレンズ・ラブ」に対して。彼らのおかげで、私たちの小さな努力に他の人びとが注目するようになりました。
- 3、シンガポールの仲間に対して。彼らは資金を寄付し、私たちのセンターが電気を使えるようにしていただきました。そして現在でも、毎年訪問と給食プログラムへの援助を通じて、学校の運動を支援し続けてくださっています。
- 4、以前、ユニセフのマニラ事務所の青少年プログラム担当者であったヨーコ・オカダさんに対して。彼女は、センターの設備完成の力となってくくださった大勢のボランティアの最初のグループを、送り込んでくださいました。
- 5、創価大学東南アジア研究会の学生とボランティア、私たちの親しい友人たち——カズミ・イワサキ、セイイチ・オオタ、タカオ・タキガミ、ケン・ナガタ、カツナリ・サワダ、マコト・カワイ、カヨ・サワグチ、ミオ・タカノ、ナオコ・オキモト、リツコ・クドウ、その他多くの日本の個人と団体の友人の皆さんに対して。どなたのことかは、皆さんご自身がおわかりでしょう。皆さんは、ペアラン・パンタオがとても必要としている支援のすべてを提供して下さり、学校の毎日の運営を支えてくださいました。
- 6、「アルバン基金」を通じて、リサール州モンタルバンの政府の再定住地区にペアラン・パンタオの分校を完成させることを助けてくださったスイスの友人たちに対して。
- 7、特別の時期に、クリスマスや夏の活動を企画してくださったフィリピンの学生、専門家、民間企業の皆さんに対して。
- 8、また、富めるか貧しいか、若いかな配かにかかわらず、時間や才能、宝物とでも呼ぶべきものを提供して下さった、その他多くの皆さんに対して。
- 9、そして今、私たちのささやかな努力を認め、今年のアジア人権賞を授けてくださったアジア人権基金に対して。

私たちは、これらの団体や個人の皆さんが私たちの支援に駆けつけ、私たちの夢を共有して下さったことに、心から感謝しています。皆さんの支援なくしては、私たちの学校の成功はありえませんでした。

現在、パララン・パンタオは新しい場所にあります。古い建物は、ゴミ捨て場の拡張のために壊されてしまいました。幸い、常に私たちに寄り添ってくれた沢山の人びととグループが、今も私たちと共にあり、ケソンの郊外のモンタルバンに近い再定住地の家族の子どもたちのために、同様のプログラム〔分校を開設し運営する〕を立ち上げるのを支援してくれています。

私たちはこの授賞に、もう一度感謝申し上げます。今なお、パヤタスの子どもたちのためになすべきことは、たくさん残されています。私たちの仕事は、ゴミ捨て場のゴミと同じくらい「沢山ある」と感じています。けれども有り難いことに、それを手伝おうという人びとは存在するのです。

これからの仕事は大変だとは思いますが、パヤタスの子どもたちの未来は、これまでよりはるかに輝かしいものに見えます。私たちは、皆さんやアジア人権基金を構成する方々のような人たちが、より良い社会をめざす旅を、私たちと共にしてくださっていることに、大変な勇気を得ました。

マラミン・サラマト・ポ・アト・マブハイ！（どうもありがとうございました！）



授賞式で。息子のジェコーペンと。



レティ先生を囲む会(2007/12/9)